

Q：過蓋咬合を引き起こす口腔習癖について教えてください

A：過蓋咬合は、臼歯部の咬合高径が低くなることで起こります。臼歯部の咬合高径が低くなることで上下顎前歯部の顎間距離が低くなると、必然的に前歯部の咬み合わせは深くなり、オーバーバイトが大きくなります。

この臼歯部の咬合高径を低くする口腔習癖は、おもにクレンチングであると考えられています。通常、臼歯部の咬合高径は歯の萌出力と咬合力のつり合いがとれたところで決まりますが、クレンチングがあると歯に垂直的な力が強くかかるため、咬合高径が低くなる傾向にあります。また、下顎を押しつけるような力が加わる頬杖や、うつぶせ寝などの寝方の問題も併存すると、過蓋咬合が悪化する場合があるため、日常生活における態癖もチェックする必要があります。

さらに、口呼吸などで口唇閉鎖不全があったり、オトガイ筋・頬筋の過緊張、また咬唇癖などの二次的な口腔習癖が重なると、オーバーバイトに加えてオーバージェットも大きくなります。

例えば口唇閉鎖力が弱いと上顎前歯はフレアアウトしやすくなりますし、オトガイ筋や頬筋の過緊張があると、下顎骨の成長が抑えられ、下顎が前方に成長しにくくなります。特に下口唇を上顎前歯の裏に挟み込む咬唇癖は、上顎前歯をフレアアウトさせると同時に、下顎前歯に対しても舌側方向に力がかかるので、下顎前歯の舌側傾斜も引き起こします。またこうしてオーバージェットが大きくなると、下口唇がさらに上顎前歯の内側に入りやすくなるため、咬唇癖が助長されて治りにくくなるのです。

クレンチングがある子どもの正面観の経過を見ていくと、経年的にオーバーバイトが明らかに深くなっていく症例を目にすることがあります。臼歯部の咬合高径が下がり、オーバーバイトが深くなるという変化を見ると、クレンチングが過蓋咬合に深く関与していることがわかります。また前述したように、オトガイ部に外部から力がかかる頬杖、うつぶせ寝などの態癖も影響します。クレンチングと生活の変化（入園、入学、受験勉強など）やストレスは関連があるといわれているので、生活習慣に関する問診が必要です。

参考文献

口腔習癖 見逃してはいけない小児期のサイン 医師薬出版株式会社

河井 聡